

灰色かび病

【学名：*Botrytis cinerea*】



写真1 トマト果実の被害



写真2 トマト被害葉

【被害と発生生態】

- ・被害作物…数多くの野菜，花き類など。
- ・発生部位…葉，花，茎
- ・発生好適条件…気温が20℃程度の多湿条件下，冬～初春の施設栽培で発生しやすい特徴があります。

【見分け方】

- ・葉には淡褐色の輪紋が生じ，次第に灰色のカビが見られるようになります。
- ・咲き終わった花卉では，灰色のカビが生じます。
- ・果実については，被害部が水浸状になり，軟化・腐敗します。
- ・病気が進行すると，株全体が腐敗するようになります。

【対策】

- ・ハウス栽培では換気に努め，低温多湿時には加温を行うと被害が軽減されます。
- ・咲き終わって果実に付着した花ガラは，早めに取り除いてください。
- ・ハウス被覆資材に，近紫外線除去フィルムや防滴フィルムを使用すると被害を軽減できます。
- ・発病した果実や茎葉は除去して，圃場外へ持ち出してください。
- ・20℃前後・多湿時には，発病前から薬剤の予防散布に努めてください。

参考文献

米山伸吾・草刈眞一・柴尾学，病気・害虫の出方と農薬選び，農山漁村文化協会